中世・品川のにぎわい

鎌倉武士・大井一族

12 世紀末になると、地域に根差し、その土地の名前を名字とした領主が台頭しました。鎌倉時代※に荏原郡大井郷（現在の東京都品川区大井周辺）を治めたのは、鎌倉幕府に仕えた大井実春が率いる武士団でした。大井氏は、分家の品河氏らとともに幕府お抱えの武士団として活躍しました。承久の乱（1221 年）※の後、大井一族は薩摩国（主に現在の鹿児島県）などに領地を得て、活動の拠点を西へ移していきました。

※鎌倉時代：12 世紀末から 14 世紀初頭にかけての時代。従来は貴族に仕えていた武士団が政治の実権を握りました。鎌倉（現在の神奈川県鎌倉市）に幕府が置かれたため、この名前で呼ばれます。

※承久の乱：後鳥羽上皇一派と幕府との間に起った争乱。幕府の勝利に終わりました。

品川の湊と商人

室町時代※の品川は、六浦、神奈川（以上、現在の神奈川県横浜市）とならぶ重要な港町として発展し、太平洋を運ばれた西国からの物資は、品川を経由して、関東各地へ届けられました。品川には人々が往来し、物資が流通し、東京湾沿岸地域との交易も盛んに行われ、繁栄しました。15 世紀半ばには、熊野地方（現在の和歌山県南部と三重県南部）出身の鈴木道胤や榎本道琳など、海運などで財を成した人たちが活躍しました。

※室町時代：14 世紀初頭から 16 世紀後期にかけての時代。足利氏を中心とした武士団が政権をとりました。室町（現在の京都府京都市）に幕府が置かれたため、この名前で呼ばれます。

中世品川の寺院

12 世紀末から 16 世紀後期の品川には、武士や商人の寄進により、清徳寺・海晏寺・法禅寺・願行寺・海蔵寺・本光寺・妙国寺（天妙国寺）などの寺々が建立されました。

品川の霊場・御殿山

御殿山（現在の東京都品川区北品川 4 丁目付近）は、かつて海を一望できる小高い丘陵でした。江戸時代末期の 19 世紀半ば、品川沖に台場を築造する際に、埋め立て材料の土を取るため丘陵を切り崩したところ、14 世紀初頭から 15 世紀末にかけて造立された大量の板碑※1 や五輪塔※2、宝篋印塔※3 が人骨とともに見つかりました。当時の御殿山は、来世での幸福を願って供養や葬送が行われた神聖な場所であったと考えられます。また、船が航行する際の目印であったとも考えられます。

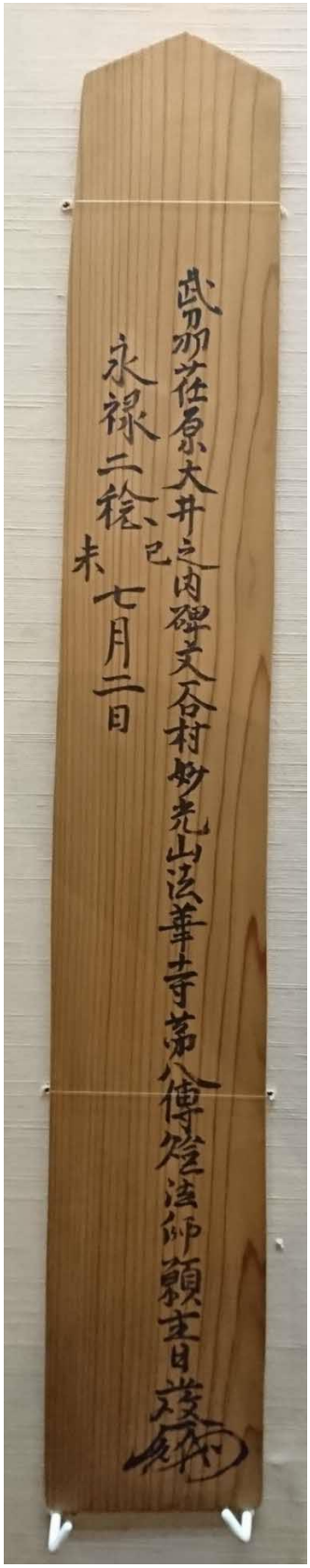
※1　板碑：板状の石に、仏をあらわす文字や供養者名、供養年月日などを刻んだもの。
※2　五輪塔：5 つの石材を積み上げ、それぞれ地・水・火・風・空の要素を表したもの。
※3　宝篋印塔：当初は経典を納めるための塔でしたが、後に石で外見を模してつくられるようになりました。

1_02_01

妙国寺絵図（複製）

17 世紀初頭成立か
原資料：天妙国寺所蔵、当館寄託
東京都指定文化財
妙国寺が広大な敷地と多くの建物を有していた時代の絵図です。建物は、熊野（現在の和歌山県南部と三重県南部）出身と伝えられる鈴木道胤の寄進によって室町時代の 15 世紀中ごろに整備されました。慶長 19 年（1614）8 月 28 日に五重塔が倒壊し、20 年後の寛永 11 年（1634）に江戸幕府三代将軍徳川家光が再建しました。

1_02_02



円融寺金剛力士像納入木札（複製）

永禄 2 年（1559）7 月
原資料：円融寺所蔵
円融寺は、東京都目黒区碑文谷にある天台宗の寺院です。円融寺が日蓮宗法華寺の時代に作られた金剛力士像の中に納められていた木札には、この当時碑文谷が大井（現在の東京都品川区大井付近）に属していたことがわかります。

1_02_03

法禅寺板碑

14 世紀初めから 15 世紀末
法禅寺所蔵、当館寄託
品川区指定文化財
12 世紀末から 16 世紀後期に盛んに造られた供養塔の一つ。柔らかくて文字を掘りやすく、かつ薄くはがれやすい特徴を持つ秩父産の岩石を用いた板碑は、関東地方に 4 万基以上残っています。
御殿山では、徳治 3 年（1308）から延徳 2 年（1490）に製作されたものを含み 116 基が確認されています。

多摩川流域から出土する常滑大甕

現在の府中市、小金井市、武蔵村山市、多摩市、八王子市など、多摩川の本流や支流付近で、常滑焼の大甕が出土しています。これらは、港町である品川から多摩川を通じて運ばれたと考えられます。

1_02_04

常滑焼の大甕

御殿山で発見された大甕で、現在の愛知県常滑市で 15 世紀前半に作られたと考えられます。この甕は粘土紐を巻き上げて作られました。当時、常滑焼は太平洋側を通航する船によって、品川を始め全国各地へ運ばれました。
武蔵国の政庁があった府中市など多摩川流域でも、よく似た大甕が出土しています。